

■平成 31 年度 後期選抜 入試問題分析 【理科】

■問題分析

1. 全体を通して

例年同様第一問に各分野の小問集合が 36 点分で、第二問から第五問までが各分野から単元を絞った出題で、それぞれ 16 点分となっている。第二問からの点数の内訳を見ても、例年通り基本的には 3 点で 4 点問題か 2 点問題が 2 問ある形式であった。学年別でみると、1 年生分野で 34 点、2 年生分野で 37 点、3 年生分野で 29 点とどの学年からもバランスよく出題されている。難易度は過去 5 年の中でも易しい部類に入ると考えられる。

2. 大問ごとの分析

【第一問】小問集合

4 分野(化学・地学・物理・生物)から基本的な内容の出題。高気圧と低気圧の位置関係の読み取りと、密度の理解ができていれば満点を取れる難易度である。

【第二問】地学分野(火山)

ここ数年では出題のなかった火山からの出題であった。実験操作の理解や鉱物の形の知識がないと解けない問題があった。ねばりけと火山灰の種類の記述は定期テストでも出題されるレベルのため、火山の形と合わせて覚えておかなければならない。

【第三問】化学分野(状態変化・密度)

5 番以外は難しくない。その 5 番も文章と数値の読み取りを間違わなければ容易に解ける問題である。

【第四問】生物分野(生態系)

近年では出題されていなかった生態系からの出題であった。問題が 2 ページにわたり、資料や表が多いため今年度で最も難易度が高い問題といえる。2 問ある記述問題をいかにして解くかが合格への鍵となる。

【第五問】物理分野(仕事)

仕事の原理からの出題であった。定滑車と動滑車の性質を理解できているかが問題を解くポイントであった。仕事率の計算と加えた力の関係の難易度は高めである。

■出題・配点一覧

大問・単元	形式・内容	問題数	配点	小計
第一問 小問集合	記号選択	9	3	36
	語句補充	3	3	
第二問 地学	記号選択	3	3	16
	語句補充	1	3	
	記述	1	4	
第三問 化学	記号選択	3	3	16
	記述	1	3	
	計算	1	4	
第四問 生物	記号選択	2	2	16
	語句補充	2	3	
	記述	2	3	
第五問 物理	記号選択	1	2	16
	空欄補充	3	3	
	作図	1	3	
	計算	1	4	